所信表明

議員の皆様のお許しをいただき、今年の夏に予定されている知事選挙について、私の所信を明らかにさせていただきます。

兵庫県知事に就任して１１年８か月。この間、県民の参画と協働を基本に、２１世紀の成熟の時代にふさわしい新しい兵庫づくりに全力で取り組んできました。

知事としての１期目の目標は、大震災からの創造的復興の総仕上げでした。２期目は、ポスト大震災として「元気な兵庫」づくり、３期目は、多様性という兵庫らしさを生かし、新しい兵庫づくりを推進してきました。この間、一貫してめざしてきたのは、兵庫らしい兵庫づくりです。

兵庫は今、本格的な人口減少という新たな局面に入りました。社会、経済も成熟する中で、兵庫らしい質的な豊かさを求めていくことが必要です。今後とも兵庫が活力を失わず、さらに飛躍するためには、長期にわたるデフレ経済からの脱却と経済再生をはじめ、安全安心対策、少子、高齢、世界化への対応など兵庫から未来を拓く中長期的な課題に取り組まねばなりません。まさに「安全安心」の確保と「元気」の創出です。

兵庫には、進取の気性にあふれ、意欲をもって地域で活動する多くの人々、故郷・兵庫を愛する人々がいます。だからこそ、わが国の発展をリードし、震災などの困難も乗り越えることができたのです。

そうした兵庫だけに、県民一人ひとりが希望と生きがいをもって、いきいき活動する社会づくりに挑戦してほしい、その力を持っていると確信しています。

県民、団体、事業者、行政の連携、協力のもと、それぞれの役割を担いながら21世紀長期ビジョンのいう「創造と共生の舞台・兵庫」の実現をめざさなければなりません。

まずは、阪神・淡路大震災を忘れない、その教訓を伝える、そして未来に備えることです。安全安心です。

第２は、デフレ脱却、経済対策です。そして、社会資本の充実です。

第３は、活力の持続です。人口減少社会であっても、少子化、高齢化、地域格差、世界化への挑戦です。

第４は、ふるさと意識の育成です。「ふるさと」こそこれからの兵庫をつくるキーワードです。

第５は、兵庫の自立です。関西広域連合など地方分権と第２次行革プランの推進です。

これらが、明日の兵庫をめざす基本方向です。21世紀社会の構築へ大きく構造変化していく時代だけに、兵庫の未来への道筋をきちんと確立しなければなりません。

こうした中、多くの県民や団体の皆様から、引き続き県政運営を担うべく、夏の知事選挙に出馬するよう要請をいただきました。身に余る光栄であり、心から感謝申しあげます。

兵庫に生まれ育った人、兵庫で生活している人の期待に応え、兵庫の安全と元気を構築するため、私自身、兵庫人として、これまでの県政推進の基調をもとに、兵庫の未来を拓く責務があると考えます。このため、夏の知事選挙に出馬する決意をしました。

私が県政を担うにあたり、原点とも言える２つの光景が心に刻まれています。

１つは、阪神・淡路大震災です。多くの先人が営々と築き上げてきた都市が、わずか十数秒の揺れで壊滅的な被害を受けたのです。震災翌年、副知事として兵庫県に着任した当時、いたる所に震災の傷跡が残っていました。その中で、明日に向けて懸命に歩む県民の皆様の姿に、兵庫を復興しなければならない。再び同じ悲しみが繰り返されることがないよう、安全安心な兵庫を確立しなければならない。兵庫の経験を内外へ伝え、生かしていかなければならない。そう決意しました。

もう１つは、私を育んでくれた「ふるさと兵庫」です。豊かな自然、文化、そして温もりある人とのつながりの中での体験は、今の私をつくってくれた礎です。誰にも生まれ、育った所があります。だからこそ、故郷は都会だろうと、地方だろうと皆が持っているのです。私たちの「ふるさと兵庫」は、２１世紀においても、兵庫に生まれ、育ち、暮らす人々にとって、魅力と活力あふれる故郷であり続けてほしい。今を生きる私たちには、この故郷を維持し、発展させ、次代につないでいく責務があるのです。

いま一度、原点に立ち返り、県民の皆様の参画と協働のもと、県民本位、生活重視、現場主義の県政を基本として、県議会をはじめ、県内各市町とも緊密に連携しながら、ふるさと兵庫の発展に全力を尽くす覚悟です。

議員の皆様には、私の本意をご理解いただき、引き続き一層のご指導とご鞭撻をいただきますよう心からお願い申しあげます。

平成２５年３月２５日

兵庫県知事　井戸　敏三